

9/27  
月曜

# あわらの洋上風力発電事業

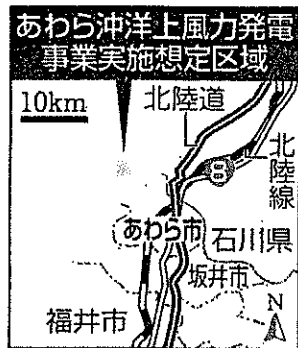
# 最大20基で 20万キロワット 出力

## 北電など3社計画

あわら市の沖合に建設が検討されている洋上風力発電事業の概要が二十六日、明らかとなった。事業者は中部電力（名古屋）と北陸電力（富山県）、再生エネルギー開発を手掛ける「OSCF」（東京都）の三社。八千〜一万二千基の発電機を最大二十基設置し、総出力は最大で二十万キロワットとなる計画だ。

（北原愛）

### 海底固定の「着床式」想定



事業化に向け、実施想定区域で配慮すべき項目を取りまとめた「計画段階環境配慮書」を、同日付で国や

関係自治体へ送付した。完成時期は未定。

想定区域は沖合一〜二・九キロに広がる千七百七基で、発電機を設置区域だけでも八百七十六基。水深は三〇メートル程度で、基礎部分を海底に固定する「着床式」を想定している。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の洋上風況マップを参考に安定した風況と水深などから好立地と判断し、OSCFが二〇一七年九月から開発を検討。

一八年二月に中電、一九年二月に北電が参画して調査を進めてきた。

沿岸各区の住民には説明済みという。環境配慮書は福井、石川の両県庁、あわら、坂井両市の市役所、あわら市北潟公民館などとOSCFのホームページで閲

覧可能。十月二十八日まで意見を募る。環境配慮書の作成と公表は、環境影響評価（アセスメント）の手続きの一環。寄せられた意見を反映させて環境影響評価方法書を取りまとめ、現地調査などを進めたい考え。

あわら、坂井両市の沖合は近年、洋上風力発電の適地として注目を集め、電力会社や大手ゼネコンを主体とした構想が四件浮上していた。今回の三社の事業計画はその一つ。

洋上風力発電に関して、中電が一六年に秋田県の開発プロジェクトに参画を表明しているが、北電は初めての挑戦となる。北電の担当者は「冬季の落雷など北陸特有の気象条件の知識を生かしていきたい」と意気込む。